

平成二十八年度茨城県立神栖高等学校 第四十四回卒業証書授与式式辞

風の冷たさも日増しに和らぎ、確かな春の訪れを感じる今日の佳き日に、茨城県議会議員 石田 進様をはじめご来賓の方々、保護者の皆様をお迎えして、茨城県立神栖高等学校第四十四回卒業証書授与式を挙行できることは、卒業生はもとより在校生、教職員にとりまして、この上ない喜びでございます。

ただ今、卒業証書を授与されました、百三十二名の卒業生の皆さん、おめでとうございます。
皆さんは「至誠、勤勉、協和」の校訓のもと、「学力の向上」はもとより、自己の内面を磨き、その能力を伸ばし、教育の目標である「人格の完成」を目指しました。

本校所定の教育課程のほかで、授業や修学旅行・文化祭・体育祭などの学校行事・部活動などを通して、級友や仲間達との友情、教職員との信頼関係を育んだことと思います。なかには、友人との葛藤や人生について迷い・悩んだこともあったでしょう。その一つが高校生活の貴重な体験として、心に刻まれ、心を豊かにし、「人格の完成」に近づいたものと確信しております。

さて、卒業生の皆さんは今、高校を卒業できたことに、充実感と安堵感を抱いていることでしょう。

しかし、皆さんを取り巻く社会に目を向ければ、戦後の物質的な豊かさを追求し、経済成長を最優先としてきた社会のシステムは、少子高齢化やグローバル化の進展に伴い、大きな変革を迫られております。

国際社会では、さまざまな不平等や差別から抗議運動やテロリズムが生まれ、不安と恐怖と暴力が世界を覆い尽くそうとしています。また、昨年从今年にかけては、イギリスのEU離脱やアメリカのトランプ大統領の就任により反グローバル化の潮流も生まれ、先行きは不透明になってきました。

このような混沌とした二十一世紀のはじめに初等・中等教育を終え、新しいステージに立ちとうとする皆さんに、地域や日本の将来を託し、将来の示唆となる言葉を贈りたいと思います。

それは、「世界に誇る、世界が羨む日本人の伝統的な美徳を伝承してほしい」ということであります。

伝承すべき一つ目の美徳は、本校の校訓でもある、「勤勉さ」という日本の心です。

昨年、東京工業大学の太陽良典 栄誉教授が生理学・医学賞に輝きました。日本人のノーベル賞受賞は三年連続の快挙です。生体細胞内で自ら不要なタンパク質を分解して再利用するなど、医療分野に広がる研究成果は期待されます。この研究は多くの研究者が見向きもなかった分野でしたが、太陽教授は「人がやらないことをやる」との信念で研究を重ねました。太陽教授は研究一筋の人だそうです。長年の努力が、そして「勤勉さ」が、国際的に評価された一例であると言えるでしょう。

また、昨年8月のリオ五輪は日本選手団のメダルラッシュに沸き、2020年の東京大会への大きな弾みとなりました。女子レスリングで4連覇を逃した吉田沙保里 選手の「お父さんに怒られる」と

メ特ま勝のと
金。きて日さ
のた輝戦。勉
個しに定ん勤
2まら決せの
1しダ位ま人
、動メ三本
に感銅のら日
時はの後げは
同私個直遂ル
とに8、しダ
れさはず成メ
そ多ではは銅
。の道及でた
すル柔歩力し
まダた一体得
いメつ、・獲
て銅取し力、
っうちく気え
残い勝尽の耐
にとをを抵も
象個ル力大に
印1ダ死並圧
く2メで、重
強、で勝はた証
がに級決とつ
柔上階準こ負
言以全。る背
うル、たすを
いダにし利丸

「勤な
る本
け日
続な
ちう
持よ
をの
心そ
上、思
向、あ
え、あ
耐一
に界
習世
練く
なな
酷い
過達
、間
は、世
とれ
みそ
強。次
のす
人で
本」伝
日さ
勉心

彰静納大の
表冷嘉を私
す。はと、神
で手り親精は
「選かひる顔
心」つみ取笑
の平し生をの
厳将。の本そ
尊野ら道一た
と大か柔でせ
りのす。技見
や級またなて
いgいし彩り
「思Kがま多降
は、3手り、を
徳子「語節、豊
美男た。を礼。
の道し理った
目柔でとかで
つたん」た間
二しせうし瞬
き得まよ残た
べ獲せりにし
すを見降世現
承ルをて後体
伝ダ顔しが更
にメ笑を郎手
次金で礼五選
台に洛野目

。てのつ態持ま
るれ身勝儀のい
わら出。土人思
終め県すた本と
に込本でし日
礼が、人となた
り神たの々うき
ま精し慢淡よ頂
始の進我ののて
に道昇た綱こえ
礼武にし横。伝
。う綱要新すも
るい横を、でに
いと代所い範代
もい二場な模世
者な十三しのの
敗し七十を人次
ば辱第七張本を
れ侮のら主日」
いを撲か己、心
が者相幕自本の
者敗大入や手嚴
勝。新ズの尊
はじろ、一士と
に同ごはポカリ
とた先関ツ、や
ごま。里ツたい
勝負すのがと思
勝生ま勢も「
人い稀て度つす。

と運。が
材つた「
人さし心
るいでの
きあ動嚴
で「活尊
躍のなと
活て派り
でい立や
会向たい
社出し思
域に献「
地域貢て
し、学に
接元地、そ
に地はさ、
ん。座勉
さた講動
皆し前「
、ま出は
間しのに
年信ブ中
二確ラの
のをクン
こ質庭さ
、資家皆
はのやに
私て」で
し動す根

物しの本
の、そ
か、
日々、
く勉、
な「勤
と、承
こう、
るよを
れる美
され思
乱送の
心を本
に生日を
比較人う
のれたい
とさ「た
者た心だ
他満のい
やで嚴つ
さ感尊造
か福と形
豊幸りを
なとや本
的感日
質実思
物充「域
のて地

にらとの、の
誠でと謝にで
、育こ感ちま
業てのはたれ
車けおちもこ
ご掛したと、
。にとも子に、
す塩ひどのも
ま手も子期と
げ、慨、時と
上え感当なす
し迎に弁感表
申を姿お多を
礼日たる。意
御されれす。敬
言、佳さふまて
一日の長あいし
に今に愛と志
様。派やる同
皆す立迎あた
のま、送でっ
者いがのいわ
保護が朝夕ば
保ごた朝つに
、う様。いも
にと子すでと
びで、おまち
結めたい持年
おれ思気了ご
解力

平成二十九年三月一日

茨城県立神栖高等学校長

野口 正男

